

<運営推進会議における評価>

【事業所概要】

法人名	一般社団法人 横浜市都筑区医師会	事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム
所在地	(〒 224 - 0015) 横浜市都筑区牛久保西 1-20-21		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

利用者・ご家族の幸せの実現のために「その人の生きるを支える ～寄り添い・理解し・尊重する～」をケアの理念におき、丁寧なケアを目指しています。

・対象者としては、医療機器を使用している方、機能回復を望まれている方、がんや非がんのターミナル期の看取りなど、医療依存度の高い方々が、安心して自宅で過ごすことができるように努めています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2020 年 3 月 30 日	従業者等自己評価 実施人数	(15) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2020 年 5 月 8 日 ※ COVID-19 感染防止のため書面会議とした	出席人数 (合計)	(資料配布 7 人 中 回答者 6) 人
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (〃) <input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員 (1) 人 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1) 人 <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1) 人 <input type="checkbox"/> 利用者 (〃) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (〃) <input checked="" type="checkbox"/> 知見を有する者 (3) 人 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (1) 人		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p><u>1.2</u> について 事業所のサービスに求められる役割を理解できるよう事業所理念を唱和する。(月に強化週間を設ける)</p> <p><u>3.4</u> について 介護職の育成のために育成マニュアルを完成させ、目標達成のための面接を実施できる。</p> <p><u>10.</u>について 施設の災害対応マニュアルを作成し、避難誘導で実施する。</p>	<p><u>1.2</u> について 事業所理念の唱和はできなかった。</p> <p><u>3.4</u> について 介護職の育成マニュアルを完成させた。目標達成のための中間で実施ができなかった。</p> <p><u>10.</u>について 災害マニュアル作成し、2/6 に研修会を実施した。</p>	<p><u>1.2</u> について 新しい取り組みはなかったが昨年よりは、認識できている職員が増えた。</p> <p><u>3.4</u> について 新任の雇用ができなかったため、作成したマニュアルの活用はしていない。個々の職員の間面接ができている。</p> <p><u>10.</u>について 具体的な災害を想定した訓練等を行い、動けるマニュアルにしていく必要がある。</p>	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p> <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p><u>12</u> について ・利用者の目標を共有し実践できるようにカンファレンスで看護小規模多機能型居宅介護計画書を検討、共有する。</p> <p>特になし</p>	<p><u>12</u> について ・カンファレンスでの共有は、全ての利用者ができなかった。計画のカンファレンスでの検討が共通認識できていない。 ・個別目標実現のために、発声のための環境整備やリハビリ、スキントラブル対応、非がんターミナルの対応など実践できた。</p>	<p><u>12</u> について ・カンファレンスでの共有は、全ての利用者ができなかった。計画のカンファレンスでの検討が共通認識できていない。 ・個別目標実現のために、発声のための環境整備やリハビリ、スキントラブル対応、非がんターミナルの対応など実践できた。</p> <p><u>28～30</u> について 医療との連携は「よくできている」という評価が多い。</p> <p><u>31</u> について</p>

				運営推進会議では、制度に対する課題は事例を通して訴えている提案等は現在のところない。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	<p><u>32</u> について 運営推会議で検討した内容等を職員が共有し、地域包括ケアにおける看多機サービスの役割や課題等を理解することができる。</p> <p><u>41</u> について 地域に愛され必要とされるように、地域に向けた研修会の開催やボランティアの受け入れなどを行い、地域に開かれた活動を行う</p>	<p><u>32</u> について 運営推進会議資料を申し送りノートに入れて職員への周知をした。</p> <p><u>33</u> について 自治会の総会の時に、看多機の役割等の話をさせてもらった。</p> <p><u>41</u> について 実施できなかった。</p>	<p><u>32</u> について 会議資料を申し送りノートに入れたことで、会議での検討内容についての職員の理解が増えた。</p> <p><u>41</u> について 具体的に計画をしなかったため、地域住民や利用者・家族を対象とした取り組みができなかった。</p>
III. 結果評価 (評価項目 42~44)	<p><u>42・43</u> について 職員雇用、ボランティアの活用、認知症ケア、レクリエーション内容の充実をおこない、多様な利用者のニーズに対応し、個々の利用者の目標達成ができる。</p> <p><u>44</u> について 看取りへの姿勢が介護看護で共有できるように介護職への看取りの教育を行う。</p>	<p><u>42・43</u> について ・求人サイト・フェスタ・紹介など職員雇用に努めた。 ・認知症ケアについて、研修会開催した。 ・音楽療法のボランティアにデイサービスのレクリエーションを定期的に開始した。</p> <p><u>44</u> について ・3名の看取りを行った。 ・看護介護で各々の利用者の情報を共有し、看取りの場所等を検討し、ターミナルケアを実践した。</p>	<p><u>42・43</u> について ・退職者は、介護職常勤2名・非常勤3名、入職は看護師非常勤1名で、人員不足のため利用者受け入れが更に困難になった。次年度早々、3名の介護職の雇用ができた。 ・音楽療法士によるレクリエーションは、利用者にとって好影響が期待できる。</p> <p><u>44</u> について 3名と看取り人数は少なかったが、自宅死2名・施設死1名であったが、利用者・家族の思いに沿って、看取りの場所等の選択できた。</p>	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p><u>1.2</u> について 唱和などの取り組みはなかったが作年よりは、認識できている職員が増えた。</p> <p><u>3.4. 10</u> について マニュアルは作成したが活用ができていない。 職員の個人面談ができていない。</p>	<p><u>3.4</u> について ・新任介護士に対して、育成マニュアルを活用し、新任教育を行う。また、マニュアルの修正を行い、介護職の育成マニュアルをより良いものにする。 ・個人面談を行う</p> <p><u>10</u> について 具体的な災害を想定した訓練等を行い、動けるマニュアルにする。</p>	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<p><u>12</u> について ・カンファレンスでの共有は、全ての利用者ができなかった。計画のカンファレンスでの検討が共通認識できていない。 ・個別目標実現のために、発声のための環境整備やリハビリ、スキントラブル対応、非がんターミナルの対応など実践できた。</p>	<p><u>12</u> について ・看護小規模多機能型居宅介護計画書を作成後は、カンファレンス又は、意見の書き込みをしてもらうなど、共有や再検討をすることを定着させる。 ・認知症ケアについて職員の理解を深め、介護職中心としてケアのアプローチの礎をつくる。</p>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<p><u>8～30</u> について 医療との連携は「よくできている」という評価が多い。</p> <p><u>31</u> について 運営推進会議では、制度に対する課題は事例を通して訴えている提案等は現在のところない。</p>	<p><u>31</u> について 看多機の課題は、運営推進会議等で事例を通して訴えていく。</p>
	3. 誰でも安心して暮らせる	<p><u>32</u> について 会議資料を申し送りノートに入れたことで、会議での検討内</p>	<p><u>41</u> について 地域住民や利用者・家族を対象とした参集する研修会にこだわ</p>

	まちづくりへの参画(評価項目 32~41)	容についての職員の理解が増えた。 <u>41</u> について 具体的に計画をしなかったため、地域住民や利用者・家族を対象とした取り組みができなかった。	らず、企画・実施をする。(例：フレイルなど)
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)		<u>42・43</u> について ・退職者は、介護職常勤2名・非常勤3名、入職は看護師非常勤1名で、人員不足のため利用者受け入れが更に困難になった。次年度早々、3名の介護職の雇用ができた。 ・音楽療法士によるレクリエーションは、利用者にとって好影響が期待できる。 <u>44</u> について 3名と看取り人数は少なかったが、自宅死2名・施設死1名であったが、利用者・家族の思いに沿って、看取りの場所等の選択できた。・特に意見は無いが理解した。	<u>42・43</u> について ・地域からの依頼の利用者の受け入れ、登録利用者の希望するサービスの提供ができるように人材の確保をおこなう。 ・ボランティアの積極的な受け入れをおこなう

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよ そ でき てい る	あまり で きてい ない	全く で きてい ない		
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	6	8	1		・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・看多機の役割として全ての項目を網羅して事務所内に掲示し、さらに独自の理念も明確化している。「おおよそできている」が8と一番多いが、実際に掲げているため「よくできている」と評価する					
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	2	10	3		了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 1で回答あったように、理解が各職員で異なる。また、理念に沿った支援をしたいが、マンパワー不足などにより、十分に利用者・家族の支援が実現できていない。					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		7	5	3	了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 全職員の中長期的な目標は提示し、個々の目標設定、育成計画作成のために面接をし、個別計画を作成しているが、その					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		後に面接をして振り返る時間がなく、十分に機能していない。					合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	4	4	6	1	・了解（書面での返信から）	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 内部での研修は、24 時間体制でも時間や回数をずらして職員の研修機会を確保したが、参加できる人は限られてしまう。外部研修や資格取得希望者に対しては、勤務調整し支援した。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	6	8	1		・了解（書面での返信から）	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 毎日のカンファレンスやその記録・申し送りノート・電子カルテなど情報の共有のための体制は確保されている。					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要	4	6	2	2	・了解（書面での返信から）	✓ 「得られた要望・助言等のサービ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・「わからない」と記載し未記入が1名いた。 ・昨年の反省から、会議に参加していない職員にも情報を伝えるため、申し送りノートに運営推進会議の記録を挟むようにした。 ・自治会長の提案で地域の災害訓練に3名で参加し地域の活動に参加できた。					スへの反映」の視点から、充足度を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	3	8	3		・了解（書面での返信から） ・未記入1名あり ・事務員の事務スペースをダイルームから事務所内に変更し、介護支援専門員のワークスペースなどを確保し、働きやすくなったとの意見があった。 ・シフト調整、労働時間への配慮、声かえ等をして精神的な負担の軽減の支援をしている	・了解（書面での返信から） ✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	3	9	3		・了解（書面での返信から）	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・申し送りノート、カンファレンス記録、ICT 記録などから職員が自ら情報を確認するようにしているが、薬剤や利用者対応情報等の更新が時折、なされていないこともある。					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	4	8	2		・了解（書面での返信から）	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・未記入1名 ・インシデントレポートを共有し、対応策を都度検討している。 ・個人情報保護においては、ICT のセキュリティは二重でクラウド化している。 ・送迎やケア提供は、職員がひとり立ちするまで同行し指導にあたっている。					
② 災害等の緊急時の体制の構築							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	2	8	4	1	・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	3	10	2		・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている	1	9	3	1	・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		も介護職も担当利用者を決め、毎月、計画作成者のケアプランをもとに、看護師が看護・介護計画を作成している。カンファレンスで内容共有はしているが、さらに介護職が主体となって計画書作成と評価ができる体制を構築したい。					き合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	4	8	1	1	・了解（書面での返信から）	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
		[具体的な状況・取組内容] 計画は、利用者やその家族の希望を記載し、その達成のために支援内容を作成しているが、人材不足のため、通所や泊り回数は希望に添えない状況がある。					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	3	10	1	1	・了解（書面での返信から）	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
		[具体的な状況・取組内容] 利用者の状態に合わせて生活機能が維持できるように計画を作成している。					
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている	3	7	1	1	・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	5	8	1	1	・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	3	6	6		・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている	4	9	1	1	・了解（書面での返信から）	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ケアプランや主治医の治療方針をもとに看護・介護計画書を作成し、主治医に提出している。また、利用者の状況変化時は、主治医と共に方針を話合うように努めている。					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	5	7	3		・了解（書面での返信から）	✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報	10	4	1		・了解（書面での返信から）	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 情報共有は毎日のカンファレンスや連絡ノートなどで、対応策の検討では、カンファレンスや看護・介護計画書を作成であるが、計画書作成にあたっては、介護職のかかわりが少ない。					度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	7	7	1		・了解（書面での返信から）	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用開始から、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などサービス利用の目的をプランや看護・介護計画書に明確にし、ケアの提案や情報共有に努めている。							
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	3	7	2	1	・了解（書面での返信から）	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・サービス開始時には、分かりやすいようにパンフレット等で説明をし、料金も具体的に提示している。 ・2名未記入、登録時に対応していない							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		職員が理解していない。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	9		1	・了解（書面での返信から）	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・計画した内容等に関しては、利用者や家族の思いを鑑みながら、看多機計画書を作成している。月1回のケアマネ訪問時に説明等に努めている。 ・3名未記入、説明に関わっていない職員が理解していない。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	3	10		1	・了解（書面での返信から）	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 医療的ケアの指導等は、利用者の療養の目標に応じて、家族や本人に指導等を実施できている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	5	7	1	1	・了解（書面での返信から）	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 終末期等の利用者については、本人や家族の意向を十分に聞き、その実現ができるようにサービス内容の調整をしている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・ 1名未記入					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	3	5	3	2	・ 了解（書面での返信から）	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ 在宅生活の継続が困難になりそうなときは、早めに医師に家族等への説明を依頼し、療養場所も含め方針を検討・共有している。 ・ 2名未記入、関わっていないので分からないという回答と、対応を予測していると回答あり。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	4	6	2	2	・ 了解（書面での返信から）	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 主治医から利用者・家族へ説明をしてもらい、「看取りの同意書」を記載してもらい、死ぬまでの経過を丁寧に説明している記録はないが、今年度は自宅死2名、施設死1名のお看取りを行った。					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報	5	4	3	1	・ 了解（書面での返信から）	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・今年度、3名の新規があり、2名は退院カンファに参加した。その内1名は、病院PTに訪問してもらう等の連携を行った。 ・登録者が入院した場合は、必ず看護サマリーでの情報の共有をしている。					行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができる	6	3	2	2	・了解（書面での返信から）	✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	5	5	1	2	・了解（書面での返信から）	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	4	⑦		4	・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	⑤	5	2	2	・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	2	3	3	5	・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	1		1	8	・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることが	9	4			・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	できる体制が整っており、積極的に受け入れている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・3月現在、6名の喀痰吸引の必要な利用者がいる。介護職のみの対応では不十分な時は、看護職が対応している。 ・2名未記入					✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	4	7	1		・了解（書面での返信から）	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	7	4		1	・了解（書面での返信から）	✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
<u>【具体的な状況・取組内容】</u> がん末や高齢者の終末期も積極的に受け入れている。H28年度8名、H29年度3名、R1年度3名の看取り支援をおこなっている。							
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している	2	4	2	3	・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、（特定の建物等に限定しない）地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	6	5	1		・了解（書面での返信から）	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	1	3	4	4		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>る人手と所要時間、介護保険制度と障害自立支援制度と狭間利用者の問題、報酬制度の見直しなどを運営推進会議では伝えている。</p> <p>・3名の未記入もあり、職員には伝わっていない。</p>					<p>とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</p>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている	1	2	5	5	・了解（書面での返信から）	<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・今年度は、地域住民や利用者・家族を対象とした取り組みができなかった。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない [具体的な状況・取組内容]		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない [具体的な状況・取組内容] ・人工呼吸器や気管切開の利用者へのサービス提供は、安心感はあるようすが、利用者家族が満足できるような量的なサービスの提供ができていない。		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <p>[具体的な状況・取組内容] 今年は3名の利用者の看取りとなった。自宅2名・施設1名であったが、利用者・家族の思いに沿って、看取りの場所等の選択できた。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」